●やまだまち
山田町

震災伝承ギャラリーを併設した地域交流の場

●やまだまちまちなかこうりゅうせんたー
山田町まちなか交流センター

山田町は三陸海岸の中央近くに位置する太平洋に面した町で、震災では町の中心を含む沿岸部が大きな津波被害を受けました。町ではこの震災被害の実情と教訓、そして復興の歩みを後世に伝えていくため、まちなか交流センターに「震災伝承ギャラリー」を設けています。

ギャラリーでは、町内各地区の被災状況や船越小学校の避難の軌跡、復興後の町並みなどをパネル展示するほか、震災の証言映像などを上映しています。また、室内には被災した道路標識などの遺構を展示。被害の生々しさや津波の威力が伝わってきます。

コンパクトなギャラリーですが、入場無料で、映像や資料展示も豊富。特にまちづくりの過程が分かる映像展示「東日本大震災からの復興」は必見です。別途、語り部ガイドもありますので、併せて学ぶことでより理解が深まります。

山田町の被害状況

最大震度	5強
浸水面積	5㎢
最大浸水高	18.97m
全壊	2,762棟
半壊	405棟
一部損壊	202棟
死者	824人 注①
行方不明者	1人 注①
負傷者	不明

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.1下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

震災伝承ギャラリー内にあるモニターでは、「東日本大震災からの復興」をはじめとして、被災者や消防団員、炊き出し支援を行った町内団体メンバーらの証言映像を放映している

パネル展示「船越小、津波にのまれる」には、地元の海を知る校務員の進言をもとに、校長の判断で裏山に避難し、児童・教職員が助かったという、船越小の避難の軌跡が記されている

パネル展示「2011.3.11の記録」では、地図上で浸水区域の範囲や建物被害など、山田町の被災状況を見ることができる。そのほか、津波襲来時や津波火災時の映像を視聴することもできる

考えてみよう

Q1 船越小学校の避難の経緯は震災当時の報道で知られるところとなりました。この学校は高台にありましたが、海からはどのくらいの高さだったのでしょうか?

Q2 マニュアル通りに校庭に避難していましたが、校長にさらに高い裏山への避難を提言した校務員の判断の決め手になったことは何でしょうか?

展示・交流拠点

語り部あり　車椅子OK
※要予約

施設DATA

●やまだまちまちなかこうりゅうせんたー
山田町まちなか交流センター

☎0193-82-3111(山田町役場) MAP P112E3

住 山田町川向町6-24
交 三陸鉄道陸中山田駅からすぐ
時 10〜17時
休 火曜(祝日の場合は翌平日)
料 無料、語り部ガイドは2時間まで5000円※要予約、コースは応相談。申込みは☎0193-77-3732(新生やまだ商店街協同組合)へ。
P あり(大型バス:なし)

A1 海抜13mの高台にあった。
A2 震災時の海の様子を目撃し、校務員が自身の父親から聞かされていた津波の教訓をもとに判断をした。

注①出典:3.11東日本大震災 山田町被害概要,令和3年11月26日15時発表,山田町